

藤澤道郎教授略歴および著作目録

〔Ⅰ〕 略 歴

- 1933年 4月14日 京都市下京区五条高倉西入る万寿寺町に生まれる。
京都市立有隣小学校，京都府立第一中学校，途中学制改革により京都府立堀川高等学校併設中学に移動，さらに同堀川高校に進学。
- 1951年 3月 宇治市大久保町北ノ山に転居。
- 1952年 4月 京都大学文学部に入学。
- 1955年 4月 国語学国文学専攻よりイタリア語学イタリア文学専攻に移る。
- 1957年 3月 京都大学文学部文学科卒業（イタリア語学イタリア文学専攻）。
同年 4月 京都大学大学院文学研究科に進学。
- 1957年12月 最初の学術論文『作品構造から見たデカメロンと新生』を「イタリア学会誌」に発表（岩倉具忠と共同執筆）。
- 1961年 7月 最初の翻訳書『コミンテルン史論』（P. トリアッティ著，石堂清倫と共訳）を刊行。またこの年より「グラムシ選集」（合同出版）刊行に携わり，翻訳と第二期刊行（第4～6巻）の編集に当たる。
- 1962年 3月 京都大学大学院文学研究科（言語学【イタリア語学イタリア文学】専攻）博士課程単位取得満期退学。
- 1962年 4月 日本学術振興会研究奨励生として奨学資金を受ける。
- 1966年 4月 神戸女子短期大学専任講師。
- 1967年 4月 桃山学院大学専任講師。この年 8月堺市新金岡町1丁7番に転居。

- 1969年 4 月 桃山学院大学助教授。
- 1969年10月 在ローマ日本文化会館客員講師として一年間日本語講座を担当。
- 1972年 7 月 G.フィオーリ『グラムシの生涯』を平凡社より訳刊。
- 1974年11月 桃山学院大学付属図書館長（翌75年 3 月まで）。
- 1975年 4 月 桃山学院大学教授。

*この頃から後、1994年くらいまでの約20年間は多事多端、桃山学院大学では一般教育の整備、入試の改善、総合研究所の組織化と国際研究交流の開始、図書館設備の充実、学院将来計画の策定等について次々に責任ある立場に立たされ、夏期休暇も入試問題作成のために半分以上潰れることが多かった。またイタリア学会再建の仕事にも責任を負わねばならず、会則の改定、学会員の確定と拡大の方針を定め、学会誌編集長として編集と論文審査の体制を作り上げねばならなかった。斯学後進育成のために京都大学と大阪外国語大学にどちらもそれぞれ延べ十数年非常勤出講していたのもこの時期で、他にも広島大学と東京大学には夏期集中講義に出かけた。いずれも学部・大学院共通講義だったので、準備なしというわけには行かなかった。週のうち授業のないのは土曜だけで、それも会議その他で潰れることがよくあった。1979年度後期に国外研修を許され、イタリア、フランス、イギリスに半年滞在したときが唯一伸び伸びできた時期だった。1983年に当時はまだ新しい発明品だったワープロを導入し、仕事の能率がよくなったおかげで何とか凌げたのだと思う。この間に著書を4冊書き、翻訳書を3冊出し、雑誌連載も続けたのだから、我ながらよく働いたと思うが、この20年間の過労は知らぬうちに健康をむしばんで

いた。

- 1976年 4 月 一般教育委員長（翌年 3 月まで）。
- 1976年 9 月 最初の著書『イタリア・マルクス主義研究』を現代の理論社より刊行。
- 1977年 9 月 総合研究所長代理としてミラノ・ボッコーニ商科大学と桃山学院大学の共同シンポジウムを主宰する。
- 1977年10月 総合研究所長（'79年 3 月まで）。
- この年堺市新金岡から宇治市大久保町に居をもどす。
- 1979年 1 月 I.モンタネッリ『ローマの歴史』を中央公論社より訳刊。
- 1979年 5 月 著書『アントニオ・グラムシ』をすくらむ社より刊行。
- 1979年 9 月 国外研修員としてヨーロッパへ行く（翌年 2 月末帰国）。
- 1980年 4 月 一般教育委員長（'82年 3 月まで）。
- 1984年 1 月 桃山学院大学中・長期計画委員会委員長として『新学部設置に関する答申』をまとめ、学長に提出。
- 1985年 6 月 桃山学院大学国際センター設置準備委員会委員長として『国際センター設置に関する答申』をまとめ、学長に提出。
- 1986年 4 月 図書館長（'88年 3 月まで）。
- 1987年12月 著書『ファシズムの誕生』を中央公論社より刊行。
- 1991年10月 著書『物語イタリアの歴史』を中央公論社より刊行。
- 1992年 4 月 図書館長（'94年 3 月まで）。

*校地移転前の図書館長職は事務職員がよく補佐してくれたので何とか勤め上げたが、この頃から急速に体力が衰えてきた。文学部が新設されて所属がそちらに移り、大学院もできて、それまでフランス語の初級と文学の講義をしていればよかったものが、桃山学院大学でも自分の専門に関することをやらねばならなくなった。イタリア語、イタリア研究のゼミナール、それに大学院の授業。皮肉なことにこの頃から、桃山の学生はかんどころさえ

押えてやれば熱心に勉強することが分かってきた。イタリア語の受講生は毎年増加の一途をたどり、院生も各地から集まってくる。ゼミについては3年次と4年次の間にイタリア研修旅行に連れていくと、教育効果が非常に高まることも分かった。ゼミは活発になり、院生は猛烈に勉強したから、手を抜けなくなった。他大学への出講はすべて断ったが、それでも週7-8コマの授業だけで疲労困憊する自分をいぶかしく思った。国際センター長という役職も回ってきたが、それをこなすだけの体力は残っていなかった。遂に心臓発作に見舞われ、これを治癒する方法はないが過労を避ければ生命に別状はない、と医者は言った。それで退職の 때가近づいたと知ったのである。最小限授業だけはきちんとやろうと思ったが、バス停留場からアンデレ館まで歩くだけで息が上がる状態では、心許ないことだった。しかし、イタリア語担当の非常勤講師としてお願いした武田、和栗、啜の3先生が献身的に支えてくれ、最後の年にはローマからパオラ・ラヴァッレさんが駆けつけて素晴らしい授業をやってくれた。武田さんは大阪外大で、啜さんは桃山学院大学で、私が教えた学徒であり、パオラさんはローマで一年間日本語を教えて以来の付き合いである。自分が教えた人たちがこんなに立派に成長して、学生の信望を集めているのを見ると、もう自分は引退しても悔いは残らないと思えた。ともかく彼等のおかげで何とか最後の数年、授業で学生・院生に迷惑をかけることはなくて済んだと思う。院生やゼミの学生も何かと助けてくれたし、卒業生も応援してくれた。自分の研究と教育だけで手一杯になってしまったので、行政実務の面では同僚の先生方や

事務職員の皆さんにずいぶん御迷惑をおかけすることになってしまった。これ以上迷惑をかけ続けることはできないので、選択定年制実施を機に、33年の桃山生活に終止符を打つことにしたわけである。

- 1994年 9 月 国内研修員として在宅研修（翌年 8 月まで）。
- 1996年 4 月 国際センター長（任期は 1 年だが、後半はまったく仕事ができず、名前だけのセンター長であった）。
- 1996年10月 筑摩書房から『マキアヴェッリ全集』刊行の企画が決まり、翻訳、編集、監修に当たる（1998年10月第一巻刊行、全 6 巻で2000年 3 月まで）。
- 1998年 3 月 藤澤研究室紀要『南欧文化研究論集』創刊号を刊行（同年 12 月第 2 号，2000年 2 月第 3 号を発行した）。
- 2000年 3 月31日 選択定年制により定年退職。
- 2000年 4 月 桃山学院大学名誉教授の称号をうける。

〔II〕 著作目録

2000. 1. 12現在

I 著 書

- | | | |
|----------|---------------|--------|
| 1976. 9 | イタリア・マルクス主義研究 | 現代の理論社 |
| 1979. 5 | アントニオ・グラムシ | すくらむ社 |
| 1987. 12 | ファシズムの誕生 | 中央公論社 |
| 1991. 10 | 物語イタリアの歴史 | 中央公論社 |

II 論 文

【単行書掲載論文】

- | | | |
|----------|-------------------|------------|
| 1969. 6 | プロレタリアートのヘゲモニー | |
| | 『講座 マルクス主義 1・世界観』 | 日本評論社 |
| 1972. 10 | 島崎藤村のフランス行き | 『島崎藤村』朝日出版 |

1988. 3 グラムシのルネサンス観
『イタリア・ルネサンス文化』（清水純一教授退官記念論文）
1989. 3 ローマ進軍の意味
『現代世界の政治状況』（勝部元教授古希記念）
1992. 3 「自由主義革命」の位相 『池田廉教授停年退官記念論文集』

【雑誌連載論文】

1966. 1－9 アントニオ・グラムシの思想（全9回） 現代の理論
- 1972－83 イタリア現代史の試み（全8回） イタリアーナ
- 1977－79 アントニオ・グラムシ（全22回） すくらむ
- 1997－99 人物で語るイタリアの歴史（全24回） NHKイタリア語会話

【雑誌掲載論文】

1957. 12 作品構造から見たデカメロンと新生
イタリア学会誌（岩倉具忠と共同執筆）
1960. 12 変革者の目を通した変革の思想 イタリア学会誌
1964. 5 日本の近代文化と日本のことば 現代の理論
1964. 11 驚とめんどり 現代の理論
1964. 12 デ・サンクティスの神曲批評
イタリア学会誌（米山喜晟と共同執筆）
1965. 4 Dante nella letteratura moderna del Giappone
在ローマ日本文化会館年報
1965. 6 憲法と戦後のモラルについて 現代の理論
1966. 9 アントニオ・グラムシ論 思想
1966. 12 現代の歴史的規定について 現代の理論
1968. 3 トリアッティの民主主義思想 現代の理論
1968. 12 ニッコロ・マキアヴェッリの最初の書簡について
イタリア学会誌

1970. 5 A.Gramsci durante il periodo dell'occupazione delle
fabbriche 在ローマ日本文化会館年報
1972. 10 島崎藤村のフランス行き 人文科学研究 (桃山学院大学紀要)
1973. 2 工場占拠闘争とグラムシ 現代の理論
1973. 12 マキアヴェリの1498年3月5日付の書簡について再論
イタリア学会誌
1974. 1 西欧型統一戦線の写像について 朝日ジャーナル
1974. 11 イタリアは蘇生するか 朝日ジャーナル
1974. 11 グラムシとトリアッティにかんする文献資料 歴史学研究
1975. 4 思想史の中のイタリア共産主義
SPAZIO (日本オリヴェッティ社)
1975. 7 歴史的妥協と反ファシズム 現代の理論
1976. 3 1975年6月のイタリア統一地方選挙について
桃山学院大学総合研究所報
1976. 7 歴史的妥協の歴史的系譜 月刊労働問題増刊号
1976. 10 パリの藤村 人文科学研究 (桃山学院大学紀要)
1983. 3 ダヌンツィオとローマ進軍 イタリア学会誌
1987. 10 錯誤を通じての前進 イタリア学会誌
1990. 3 藤村の初恋 人文科学研究 (桃山学院大学紀要)
1993. 8 ヴェネツィアの祝祭の中から 別冊太陽
1993. 8 パニユルジュ的人間像 国際文化研究 (桃山学院大学紀要)
1998. 3 実践と理論のはざま—君主論成立事情についての試論
南欧文化研究論集 (桃山学院大学藤澤研究室紀要)
1998. 12 鞭と振り子—ミケランジェロ詩をめぐる断想
南欧文化研究論集 (桃山学院大学藤澤研究室紀要)
2000. 2 記憶と記録の間—いわゆる pieno di paura 問題について
南欧文化研究論集 (桃山学院大学藤澤研究室紀要)

III 翻 訳

【全集・著作集の監修・編集】

- 1961-65 グラムシ選集 全6巻 合同出版（山崎功監修 代久二・藤沢道郎編集）
- 1966-68 トリアッティ選集 全4巻 合同出版（石堂・代・竹内・中村・藤沢・山崎の共同編集）
- 1998-2000 マキアヴェッリ全集 全6巻 筑摩書房（永井三明・藤沢道郎・岩倉具忠の共同監修）

【翻訳書】

1961. 7 P. トリアッティ「コミンテルン史論」
青木書店 石堂清倫と共訳
1962. 10 A. バンフィ「マルクス主義試論」 合同出版
1972. 7 G. フィオーリ「グラムシの生涯」 平凡社
1973. 7 R. デ・フェリーチェ「ファシズム論」
平凡社 本川誠二と共訳
1973. 10 F. デ・サンクティス「イタリア文学史」第二巻
現代思潮社 在里寛司と共訳
1979. 1 I. モンタネッリ「ローマの歴史」 中央公論社
1985. 2 モンタネッリ, ジェルヴァーゾ「ルネサンスの歴史」上・下
中央公論社

【単行書掲載翻訳】

1961. 11 A. グラムシ「トリーノ工場評議会運動」ほか4篇
前出グラムシ選集第1巻
1961. 11 A. グラムシ「新君主論」 グラムシ選集第1巻, 第4巻
1962. 4 A. グラムシ「大衆文学論」 グラムシ選集第2巻
1962. 4 A. グラムシ「芸術と文化」 グラムシ選集第2巻

1962. 4 A. グラムシ「イタリア文学論」 グラムシ選集第2巻
1963. 2 E. フライアーノ「新月」 世界短篇文学全集（集英社）第9巻
1963. 9 A. グラムシ「科学と〈科学的〉イデオロギー」
グラムシ選集第4巻
1963. 9 A. グラムシ「経済学ノート」 グラムシ選集第4巻
1963. 9 A. グラムシ「ベネデット・クローチェの哲学」
グラムシ選集第4巻 在里寛司と共訳
1964. 4 A. グラムシ「工場評議会と労働者国家」
グラムシ選集第5巻
1964. 4 A. グラムシ「反ファッショ闘争」 グラムシ選集第5巻
1965. 3 A. グラムシ「過去と現在」 グラムシ選集第6巻
1965. 3 A. グラムシ「オルディネ・ヌオーヴォ通信」
グラムシ選集第6巻
1966. 5 P. トリアッティ「マルクス主義とバクーニン主義」
前出トリアッティ選集第4巻
1966. 5 P. トリアッティ「共産党宣言百周年」
トリアッティ選集第4巻
1966. 5 P. トリアッティ「ガレン『イタリア哲学年代記』を評す」
トリアッティ選集第4巻
1966. 8 P. トリアッティ「ファシズムについて」
トリアッティ選集第1巻
1967. 6 P. トリアッティ「我々の国民的政策」
トリアッティ選集第2巻
1967. 6 P. トリアッティ「民主的・進歩的な憲法のために」
トリアッティ選集第2巻
1967. 6 P. トリアッティ「デ・ガスペリ論」 トリアッティ選集第2巻
1999. 11 N. マキアヴェッリ「フランス王宮廷よりの報告」
前出マキアヴェッリ全集第5巻

1999. 11 N.マキアヴェッリ「ヴァレンティーノ公宮廷よりの報告」
マキアヴェッリ全集第5巻 武田好と共訳
2000. 2 N.マキアヴェッリ「セニガリア顛末記」「メディチ党に告ぐ」
マキアヴェッリ全集第6巻
*雑誌掲載の翻訳は省く

IV書評・随想その他（思い出せるものだけ）

1975. 11 山中孝氏を悼む 「如是我聞」（山中孝追悼文集）
1979. 2 マキアヴェリと博奕
中央公論社「世界の名著第21巻」ペーパーバック版月報
- 1989-2000 名画で綴るイエスの生涯（連載16回）
桃山学院大学チャペル・ニュース
1989. 5 書評・デグラーツィア『柔らかいファシズム』
朝日ジャーナル
1989. 11 講義を考える・面白かろうとつまらなかろうと……
大学時報（私立大学連盟）
1990. 3 捨身の人—本川誠二教授を偲ぶ
人文科学研究（桃山学院大学紀要）
1992. 3 自著を語る—『物語イタリアの歴史』
アンデレクロス（桃山学院大学広報誌）
1997. 6 池野さんの思い出 池野茂先生追悼文集
1998. 4 書評・バランド『ルネサンスのイタリア』 日本経済新聞
1998. 10 マキアヴェッリの命日 前出マキアヴェッリ全集第1巻月報
1999. 1 マキアヴェッリの生きた時間 マキアヴェッリ全集第2巻月報
1999. 4 マキアヴェッリの使った貨幣 マキアヴェッリ全集第3巻月報
1999. 7 マキアヴェッリの給料 マキアヴェッリ全集第4巻月報
1999. 11 マキアヴェッリ時代の年始 マキアヴェッリ全集第5巻月報
*辞書・辞典類項目執筆は省く